

Gender Issues Facing Men in Japan 2023

ジェンダー課題チャート2023 男性版



このジェンダー課題チャートは、
ジェンダーに起因するさまざまな課題を整理し、
社会全体で解決に向かう足掛かりとして整理し始めたものです。
vol.1では女性が直面する課題に光を当てましたが、
このvol.2では男性の視点からジェンダーを考えます。

女性に立ちほだかるものとして捉えられやすいジェンダー課題ですが、
「伝統的な男らしさ」が男性たちに生きづらさをもたらし、
女性が直面する課題の原因を男性側が生み出している側面があることは、
男性学・男性性研究のなかで、繰り返し指摘されてきました。

このチャートもvol.1の女性版と照らしながら見ることで、
同じテーマでも違った視点で課題を捉えることが可能になり、
男性と女性で抱える課題が地続きであることが感じとれるはずです。
客観的なファクトをもとに議論を始めることで、
より公平な社会の実現に向けた、取り組みのきっかけとなることを願っています。

The Gender Issue Chart was created to provide an overview of gender issues
and to serve as a steppingstone to push society towards a better direction.

While the first volume sheds light on issues faced by women,
this second volume examines gender from the perspective of men.

Gender issues are often seen as something that are faced by women.

However, it has been repeatedly pointed out in men and masculinities studies that
“traditional masculinity” imposes difficulties on men and
contributes to gender inequalities that disadvantage women.

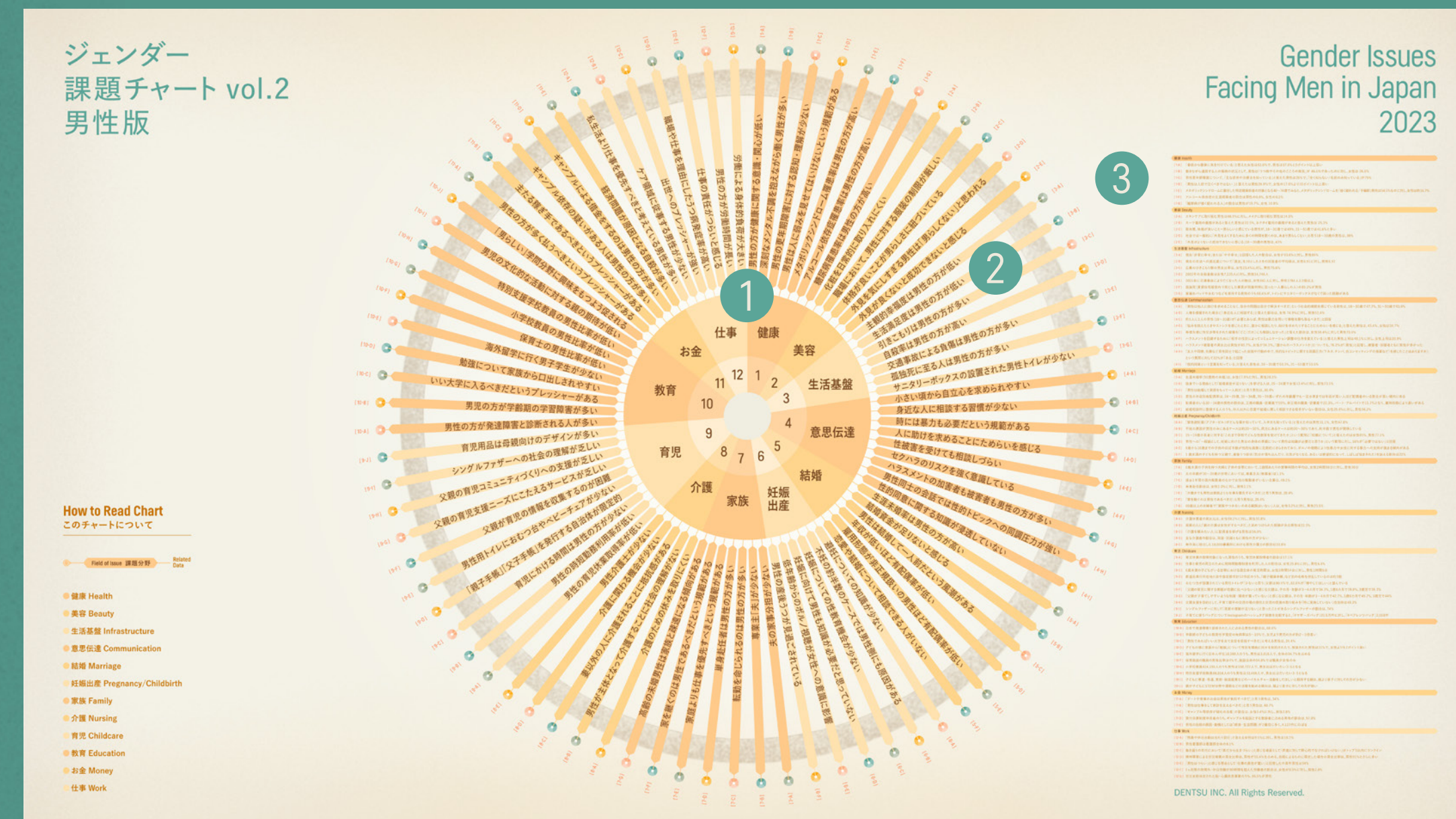
Comparing with the first volume allows you to see the issues from a different perspective
and to realize that the problems faced by men and women are connected to each other.

We hope that this chart will induce constructive discussions based on objective facts
and be a catalyst for endeavors toward a more gender equitable society.

ジェンダー課題チャートの見方

「ジェンダー課題チャートvol.2」では、ジェンダーにまつわる84の課題を、12のテーマに分類し、各課題に紐づくデータと併せて掲載しています。円形の俯瞰図では、すべてのテーマと課題を一覧できるよう同心円状に整理し、各テーマのページでは、課題、データ、そしてデータの出典元などの詳細を掲載しています。

俯瞰図



各テーマごとのページ

1 Gender Issues Facing MEN In Japan 2023 DENTSU INC. All Rights Reserved. ジェンダー課題チャート vol.2

1 健康 Health

- 2 男性の方が健康に関する意識・関心が低い
- 3 「普段から健康に気を付けている」と答えた女性は62.8%で、男性は57.6%と5ポイント以上低い
- 4 メタボリックシンドローム罹患率は男性の方が高い

2 深刻なメンタル不調を抱えながら働く男性が多い

3 男性の更年期障害に対する認知・理解が少ない

4 男性は人に弱みを見せてはいけないという規範がある

5 アルコール依存症罹患率は男性の方が高い

6 糖尿病罹患率は男性の方が高い

- 1 **テーマ** 「ジェンダー課題チャートvol.1」と対応させて、12のテーマに分類しています。
- 2 **課題** 男性が直面する84の課題を、12のテーマに分類しています。
- 3 **データ** 各課題に紐づくデータを記載しています。
- 4 **出典** データの出典を記載しています。

健康 Health

男性の方が健康に関する意識・関心が低い

「普段から健康に気を付けている」と答えた女性は62.8%で、男性は57.6%と5ポイント以上低い

明治安田生命「「健康」に関するアンケート調査」(2019年)

深刻なメンタル不調を抱えながら働く男性が多い

働きながら通院する人の傷病の状況として、男性は「うつ病やその他のこころの病気」が46.6%であったのに対し、女性は26.8%

内閣府男女共同参画局「男女の健康意識に関する調査報告書(平成30年3月)」(2018年)

男性の更年期障害に対する認知・理解が少ない

男性更年期障害について、「主な症状や治療法を知っている」と答えた男性は25%で、「全く知らない/名前のみ知っている」が75%

株式会社メディリード「男性更年期障害についての実態調査」(2023年)

男性は人に弱みを見せてはいけないという規範がある

「男性は人前で泣くべきではない」と答えた男性は28.9%で、女性の17.6%より10ポイント以上高い

内閣府男女共同参画局「令和4年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

メタボリックシンドローム罹患率は男性の方が高い

メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査の対象となる40~74歳で見ると、メタボリックシンドロームを「強く疑われる/予備群」男性は54.5%なのに対し、女性は約16.7%

厚生労働省「令和元年 国民健康・栄養調査報告」(2020年)

アルコール依存症罹患率は男性の方が高い

アルコール依存症の生涯経験者の割合は男性の0.8%、女性の0.2%

AMED「アルコール依存症の実態把握、地域連携による早期介入・回復プログラムの開発に関する研究(研究代表者 樋口進)2016-2018」(2018年)

糖尿病罹患率は男性の方が高い

「糖尿病が強く疑われる人」の割合は男性が19.7%、女性10.8%

厚生労働省「令和元年 国民健康・栄養調査」(2019年)

美容 Beauty

化粧を日常的に取り入れにくい

スキンケアに取り組む男性は66.5%に対し、メイクに取り組む男性は14.5%

トレンドーズ株式会社 メンズ美容総研「第1回メンズ美容定点調査」(2022年)

職場において、男性に対する服装の制限が厳しい

スーツ着用の義務があると答えた男性は22.5%、ネクタイ着用の義務があると答えた男性は25.3%

日本労働組合総連合会「社内ルールにおける男女差に関する調査」(2019年)

体格が良いことが男らしさに紐づいている

筋肉質、体格が良いこと=男らしいと感じている男性が、18~30歳では49%、31~51歳では41.6%と多い

電通総研「電通総研コンパス第7回『The Man Box: 男らしさに関する意識調査』」(2021年)

外見を気にしすぎる男性は「男らしくない」と思われる

社会では一般的に「外見をよくするために多くの時間を割くのは、あまり男らしくない」と思う18~30歳の男性は、36%

電通総研「電通総研コンパス第7回『The Man Box: 男らしさに関する意識調査』」(2021年)

外見が良くないと成功できないと感じる

「外見が良くないと成功できないと感じる」18~30歳の男性は、43%

電通総研「電通総研コンパス第7回『The Man Box: 男らしさに関する意識調査』」(2021年)



生活基盤 Infrastructure

主観的幸福度は男性の方が低い

現在「非常に幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合は、女性が93.6%に対し、男性86%

電通総研・同志社大学「第7回世界価値観調査」(2019年)

生活満足度は男性の方が低い

現在の生活への満足度について「満足」を10としたときの回答者の平均値は、女性6.91に対し、男性6.57

電通総研・同志社大学「第7回世界価値観調査」(2019年)

引きこもりは男性の方が多い

広義のひきこもり群の男女比率は、女性23.4%に対し、男性76.6%

内閣府「生活状況に関する調査（平成30年度）」(2019年)

自殺率は男性の方が高い

2022年の自殺者数は女性7,135人に対し、男性14,746人

厚生労働省自殺対策推進室・警察庁生活安全局生活安全企画課「令和4年中における自殺の状況」(2023年)

交通事故による負傷は男性の方が多い

2021年に交通事故により亡くなった人の数は、女性841人に対し、男性1784人と2倍以上

内閣府「令和4年交通安全白書：令和3年度交通事故の状況及び交通安全施策の現況」(2022年)

孤独死に至る人は男性の方が多い

孤独死(賃貸住宅居室内で死亡した事実が死後判明に至った一人暮らしの人)の83.2%が男性

日本少額短期保険協会 孤独死対策委員会「第7回孤独死現状レポート」(2022年)

サンタリーボックスの設置された男性トイレが少ない

尿漏れパッドやおむつなどを使用する男性のうち68.4%が、トイレにサンタリーボックスがなくて困った経験がある

日本トイレ協会「外出時の尿漏れや便失禁、人工肛門などの排泄トラブル対応に関する調査」(2022年)

意思伝達 Communication

小さい頃から自立心を求められやすい

「男性は他人に助けを求めることなく、自分の問題は自分で解決すべきだ」という社会的規範を感じている男性は、18～30歳で47.7%、31～50歳で43.9%

電通総研「電通総研コンパス第7回『The Man Box：男らしさに関する意識調査』」(2021年)

身近な人に相談する習慣が少ない

人権を侵害された場合に「身近な人に相談する」と答えた割合は、女性74.9%に対し、男性52.4%

内閣府「人権擁護に関する世論調査(令和4年8月調査)」(2022年)

時には暴力も必要だという規範がある

約5人に1人の男性(18～30歳)が「必要とあらば、男性は暴力を用いて尊敬を勝ち取るべきだ」と回答

電通総研「電通総研コンパス第7回『The Man Box：男らしさに関する意識調査』」(2021年)

人に助けを求めることにためらいを感じる

「悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる」と答えた男性は43.4%、女性は34.7%

厚生労働省「令和3年度自殺対策に関する意識調査」(2021年)

性被害を受けても相談しづらい

無理矢理に性交渉等をされた被害を「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた割合は、女性58.4%に対して男性70.6%

内閣府「男女間における暴力に関する調査(令和2年度)」(2021年)

セクハラのリスクを強く意識している

ハラスメントを回避するために「相手の性別によってコミュニケーション調整の仕方を変えている」と答えた男性上司は48.1%に対し、女性上司は33.9%

パーソル総合研究所「職場のハラスメントについての定量調査」(2022年)

ハラスメントの加害者も被害者も男性の方が多い

ハラスメント被害者の男女比は男性が65.7%、女性が34.3%。「誰からのハラスメントか」についても、76.2%が「男性」と回答し、被害者・加害者ともに男性が多かった

Job総研「2021年ハラスメント実態調査」(2021年)

男性同士の会話では性的トピックへの同調圧力が強い

「友人や同僚、先輩など男性同士で起こった会話や行動の中で、性的なトピックに関する同調圧力(下ネタ、ナンパ、合コンセッティングの強要など)を感じたことはありますか」という質問に対して22%が「ある」と回答

ミルトークにて簡易調査実施(N=716), (2023年)

性的同意に関する知識が浸透していない

「性的同意という言葉を知っている」と答えた男性は、18～30歳で63.3%、31～50歳で53.6%

電通総研「電通総研コンパス第7回『The Man Box：男らしさに関する意識調査』」(2021年)

結婚 Marriage

生涯未婚率は男性の方が高い

生涯未婚率(50歳時の未婚)は、女性17.8%
に対し、男性28.3%

内閣府「令和4年版 少子化社会対策白書」(2022年)

結婚資金が足りないと感じる

独身でいる理由として「結婚資金が足りない」
を挙げる人は、25～34歳で女性13.4%に
対し、男性23.1%

国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査(結婚と出産
に関する全国調査)」(2022年)

男性は結婚して一人前だ という風潮がある

「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」
と思う男性は、30.4%

内閣府男女共同参画局「令和4年度性別による無意識の思い込み(アン
コンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

年収が低いほど 有配偶率が低い

男性の年収別有配偶率は、24～29歳、
30～34歳、35～39歳いずれの年齢層でも
一定水準までは年収が高い人ほど配偶者
のいる割合が高い傾向にある

内閣府「令和4年版 少子化社会対策白書」(2022年)

雇用形態が非正規扱いの 男性ほど有配偶率が低い

配偶者のいる30～34歳の男性の割合は、
正規の職員・従業員で59%、非正規の
職員・従業員で22.3%、パート・アルバイトで
15.7%となり、雇用形態により違いがある

内閣府「令和4年版 少子化社会対策白書」(2022年)

恋愛や結婚について 相談できる人がいない

結婚相談所に登録する人のうち、仲人以外
に恋愛や結婚に関して相談できる相手
がいない割合は、女性25.6%に対し、男性
56.2%

IBJ結婚相談所ネットワーク(株式会社IBJ)「『普段の生活における
出会いと婚活』に関する意識調査」(2021年)



妊娠出産 Pregnancy/Childbirth

避妊についての知識が少ない

「緊急避妊薬(アフターピル)がどんな薬か知っていて、入手先も知っている」と答えたのは男性31.1%、女性47.8%

国際協力NGOジョイセフ「性と恋愛2021」(2021年)
https://ilady.world/data/survey2019_3/

不妊の約半数のケースでは男性側にも原因がある

不妊の原因が男性のみにあるケースは約20~30%、両方にあるケースは約20~30%であり、約半数で男性が関係している

Sharlip, I. D., et al. (2002). Best practice policies for male infertility. *Journal of Urology*, 167(5), 2138-2144.

妊娠についての性教育機会が少ない

15~19歳の若者に対する「これまで学校でどんな性教育を受けてきたか」という質問に「妊娠について」と答えたのは女性85%、男性77.1%

プラン・ユース・グループ「ユースから見た日本の性教育の実態調査報告書- 包括的性教育を目指して-」(2021年)

妊娠に向けて男性も知識が必要だと思っていない

男性への「一般論として、妊娠に向けた男女の身体の準備について男性は知識が必要だと思うか」という質問に対し、16%が「必要ではない」と回答

中田(中込)かおり、跡上富美「生殖年齢にある就労男性を対象とした妊孕性に関する知識と情報ニーズについてのウェブ調査」(2022年)

低年齢からのポルノ視聴が女性への意識に影響

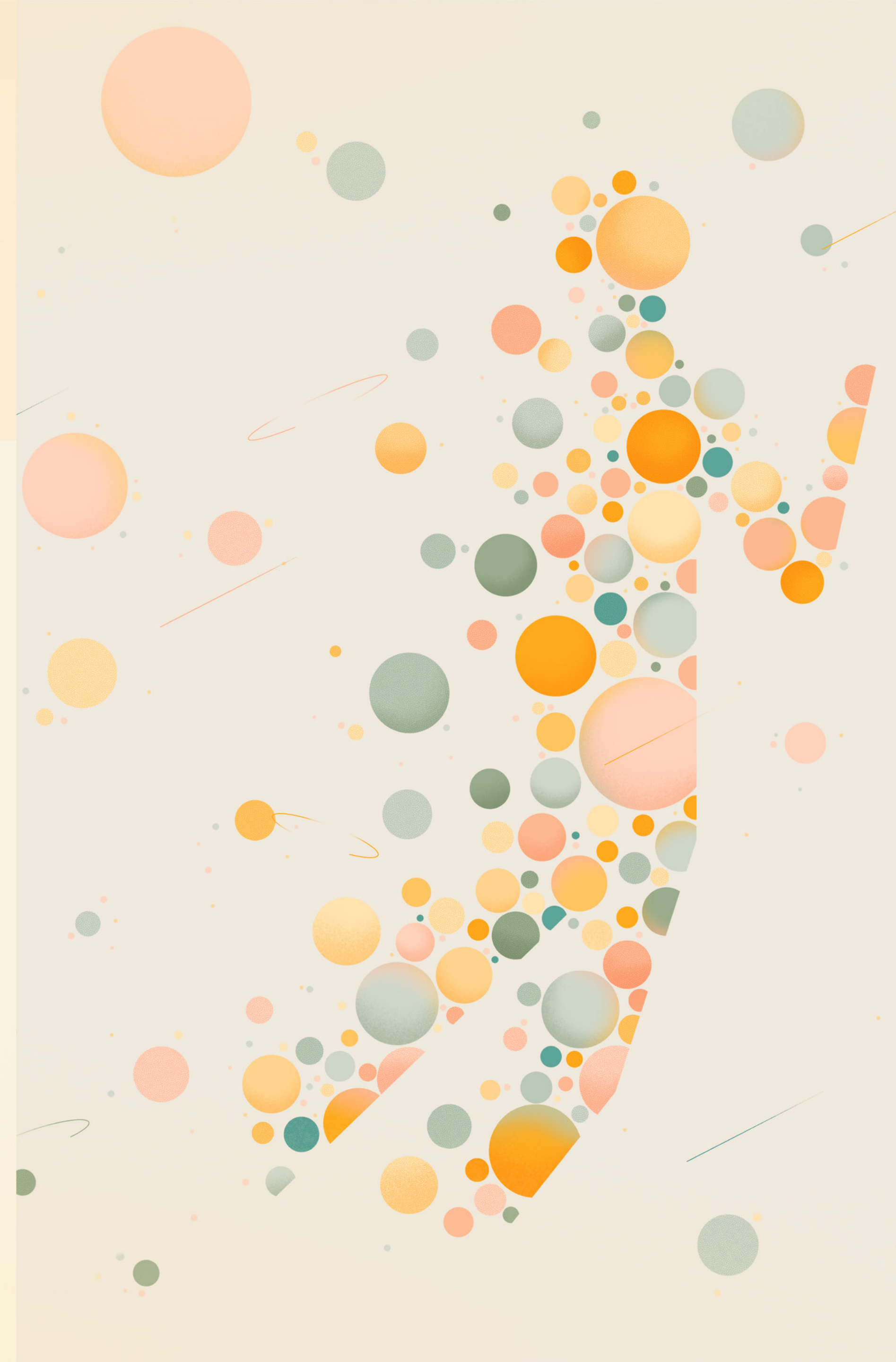
9歳から16歳までの子供のほぼ半数が性的な画像に定期的にさらされており、ポルノの視聴により性暴力や女性に対する暴力への支持が強まる傾向がある

Quadara, A., El-Murr, A. & Latham, J. (2017). The effects of pornography on children and young people: An evidence scan. (Research Report). Melbourne: Australian Institute of Family Studies.

男性の産後うつが見過ごされている

1歳未満の子どもを持つ父親で、産後うつ症状(気分が落ち込んだり、元気がなくなる、あるいは絶望的になって、しばしば悩まされた)を訴える割合は22%

日本小児科学会成育基本法推進委員会「男性の産後うつと育児休業に関するアンケート調査」(2023年)



家族 Family

夫の家事分担が少ない

6歳未満の子供を持つ夫婦と子供の世帯において、1週間あたりの家事時間の平均は、女性2時間58分に対し、男性30分

総務省統計局「令和3年社会生活基本調査結果」(2022年)

専業主「夫」が少ない

夫の年齢が30～39歳の世帯においては、専業主夫(無業者)は1.1%

総務省統計局「平成29年就業構造基本調査結果」(2017年)

転職を命じられるのは男性の方が多い

過去1年間の国内転勤者のなかで女性の転勤者がいない企業は、49.1%

労働政策研究・研修機構調査シリーズNo.174『企業の転勤の実態に関する調査』

単身赴任者は男性の方が多い

単身赴任割合は、女性1.0%に対し、男性2.1%

労働政策研究・研修機構『ユースフル労働統計2023 —労働統計加工指標集—』

家庭よりも仕事を優先すべきという規範がある

「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ」と思う男性は、28.4%

内閣府男女共同参画局「令和4年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

家を継ぐのは男性であるべきだという規範がある

「家を継ぐのは男性であるべきだ」と思う男性は、25.4%

内閣府男女共同参画局「令和4年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

高齢の未婚男性は家族と疎遠になる傾向がある

60歳以上の未婚者で「家族やつき合いのある親族はいない」人は、女性3.2%に対し、男性23.5%

坊美生子「シングル高齢者の増加とその経済状況」ニッセイ基礎研究所『基礎研レポート』(2023年)

介護 Nursing

介護のための休みを取りにくい

介護休業者の男女比は、女性69.2%に対し、男性30.8%

厚生労働省「令和4年度 雇用均等基本調査」(2022年)

男性が主体となって介護することに社会の理解がない

周囲の人に「親の介護は女性がすべきだ」と決めつけられた経験がある男性は22.3%

内閣府男女共同参画局「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

妻以外の人に介護されることに抵抗感がある

「介護を頼みたい人」に配偶者を挙げる男性は56.9%

内閣府「平成30年版高齢社会白書」(2018年)

介護に関わる機会が少ない

主な介護者の割合は、同居・別居ともに男性の方が少ない

厚生労働省「国民生活基礎調査の概況」(2022年)

男性介護士が少ない

無作為に抽出した18,000事業所における男性介護士の割合は19.8%

公益財団法人 介護労働安定センター「令和3年度『介護労働実態調査』結果の概要について」(2021年)



育児 Childcare

男性の育児休業取得率が低い

育児休業の取得対象になった男性のうち、育児休業取得者の割合は17.1%

厚生労働省「令和4年度雇用均等基本調査」(2023年)

男性の時短勤務利用率が低い

仕事と育児の両立のために短時間勤務制度を利用した人の割合は、女性25.8%に対し、男性6.8%

連合調べ「仕事と育児の両立支援制度に関する意識・実態調査2023」(2023年)

育児にかかる時間は男性の方が少ない

6歳未満の子どもがいる世帯における週全体の育児時間は、女性3時間54分に対し、男性1時間5分

総務省統計局「令和3年社会生活基本調査」(2022年)

「親子手帳」「父子手帳」を発行する自治体が限定的

都道府県庁所在地と政令指定都市計52市区のうち、「親子健康手帳」など別の名称を併記しているのは約3割

一般社団法人共同通信社「母子手帳に別名併記、15市区 父親育児を反映」(2023年6月17日)

男性用トイレにおむつ台やベビーチェアが少ない

おむつ台が設置されている男性トイレが「少ないと思う」父親は80.4%で、82.6%が「増やしてほしい」と望んでいる

P&Gジャパン合同会社「家ソト育児調査」(2020年)

父親が育児の情報を収集するのが困難

「父親の育児に関する情報が母親に比べ少ない」と感じる父親は、子の月・年齢が3~4カ月で34.3%、1歳6カ月で39.8%、3歳児で39.3%

国立成育医療研究センター「父親の育児支援ニーズに関する疫学調査(2022年度)」(2022年)

父親の育児支援ニーズにこたえるサービスが乏しい

「父親が子育てしやすいような制度・環境が整っていない」と感じる父親は、子の月・年齢が3~4カ月で42.7%、1歳6カ月で49.7%、3歳児で44%

国立成育医療研究センター「父親の育児支援ニーズに関する疫学調査(2022年度)」(2022年)

父親の育児コミュニティづくりへの支援が乏しい

父親支援を目的として、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進の取り組みを「特に実施していない」自治体は48.3%

小崎 恭弘・高木 悦子「全国都市自治体の父親支援実施現状に関する研究～子育て支援担当者調査より～」(2021年)

シングルファザーへの社会の理解が乏しい

シングルファザーに対して「周囲の理解が足りない」と思ったことがあるシングルファザーの割合は、74%

株式会社NoFrame「シングルファザーの現状についての調査」(2022年)

育児用品は母親向けのデザインが多い

子育てに使うバッグについてInstagramのハッシュタグ総数を比較すると、「#マザーズバッグ」20.5万件に対し、「#ペアレンツバッグ」2,018件

Instagram(2023年9月22日時点)

教育 Education

男性の方が発達障害と診断される人が多い

日本で発達障害と診断された人に占める男性の割合は、68.8%

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部「平成28年生活のしづらさなどに関する調査(全国在宅障害児・者等実態調査)」(2018年)

男児の方が学齢期の学習障害が多い

学齢期の子どもの限局性学習症の有病率は5~15%で、女兒より男児の方が約2~3倍高い

American Psychiatric Association. (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders* (5th ed.).

いい大学に入るべきだというプレッシャーがある

「男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ」と考える男性は、24.4%

内閣府男女共同参画局「令和4年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

勉強について家族から口出しされやすい

子どもの頃に家族から「勉強」について性別を理由に何かを制約されたり、推奨された男性は31%で、女性より9.7ポイント高い

内閣府男女共同参画局「平成30年度多様な選択を可能にする学びに関する調査」(2019年)

海外留学に行く男子学生が少ない

海外留学に行く日本人学生10,999人のうち、男性は3,815人で、全体の34.7%を占める

独立行政法人日本学生支援機構「2021(令和3)年度日本人学生留学状況調査結課」(2023年)

保育士の男性比率が低い

保育施設の職員の男性比率は4%で、施設全体の54.8%では職員が女性のみ

「平成30年度『保育人材』に関するアンケート調査」2019年1月7日公表

小学校教員の男性比率が低い

小学校教員424,155人のうち男性は158,727人で、男女比はだいたい3:5となる

文部科学省「令和4年度学校基本調査」(2022年)

特別支援学校教員の男性比率が低い

特別支援学校教員86,816人のうち男性は32,466人で、男女比はだいたい3:5となる

文部科学省「令和4年度学校基本調査」(2022年)

男児の文化的な活動に対する親の期待が低い

子どもに華道・茶道、美術・絵画鑑賞などのハイカルチャー活動をしてほしいと期待する親は、娘より息子に対しての方が少ない

片岡栄美『趣味の社会学—文化・階層・ジェンダー』(2019年、青弓社)

「男らしい」学問分野に興味をもつよう促される

親が子どもにSTEM分野や運動などの活動を勧める傾向は、娘より息子に対しての方が強い

The Gina Davis Institute on Gender in Media. (2021). "LEGO Group Creativity Study."

お Money 金

男性の方が多く払うべきというプレッシャーがある

「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」と思う男性は、34%

内閣府男女共同参画局「令和4年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

主たる稼ぎ手であるべきというプレッシャーがある

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」と思う男性は、48.7%

内閣府男女共同参画局「令和4年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

ギャンブル依存の疑いがある人は男性の方が多い

「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合は、女性0.4%に対し、男性2.8%

久里浜医療センター「令和2年度 依存症に関する調査研究事業『ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査』」(2021年)

ギャンブルによる借金をするのは男性の方が多い

貸付自粛制度申告者のうち、ギャンブルを起因とする登録者に占める男性の割合は、97.8%

日本貸金業協会「令和4年度 年次報告書『相談・苦情・紛争解決受付状況』」(2022年)

経済問題が原因となる自殺が多い

男性の自殺の原因・動機としては「経済・生活問題」が2番目に多く、4,127件にのぼる

厚生労働省自殺対策推進室・警察庁生活安全局生活安全企画課「令和4年中における自殺の状況」(2023年)

仕事 Work

私生活より仕事を優先すべきと考えている男性が多い

「残業や休日出勤は当たり前だ」と答える女性は9.5%に対し、男性は18.7%

内閣府男女共同参画局「性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(2022年)

ケア領域に従事する男性が少ない

男性看護師は看護師全体の8.1%

厚生労働省「令和2年 衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況」(2020年)

出世へのプレッシャーが強い

働き盛りの年代において「男だから生きづらい」と感じる場面として「昇進に対して野心的でなければいけない」がトップ3以内にランクイン

Lean In「男性が職場で感じる『生きづらさ』とDE&I推進に関するアンケート概要」(2022年)

職場や仕事を理由にしたうつ病発症率が高い

精神障害による労災補償の男女比率は、男性が55.4%を占める。自殺によるものに限定した場合の男女比率は、男性91%とさらに多い

厚生労働省「精神障害に関する事案の労災補償状況」(2022年)

仕事の責任が辛いと感じる

「男性は辛い」と感じる理由として「仕事の責任が重い」と回答した中高年男性は54%

日本総研「東京圏で働く高学歴中高年男性の意識と生活実態に関するアンケート調査結果(報告)」(2019年)

男性の方が労働時間が長い

1ヶ月間の時間外・休日労働が80時間を超えた労働者の割合は、女性が0.9%に対し、男性2.8%

厚生労働省「令和4年 労働安全衛生調査(実態調査)結果」(2022年)

労働による身体的負荷が大きい

労災支給決定された脳・心臓疾患事案のうち、95.5%が男性

厚生労働省「令和4年版過労死等防止対策白書(本文)」(2022年)

[注意事項・免責]

- ・本資料データを、法令や公序良俗に反する用途、他人に不利益・不快感を与える用途、趣旨に反する用途などで利用することは禁止します。
- ・本資料データを利用して商標登録をすることはできません。
- ・本資料データに掲載された情報・資料を利用、使用、ダウンロードするなどの行為に関連してトラブルや損害が発生した場合でも、電通ダイバーシティ・ラボはいかなる責任も負いません。

[問い合わせ先]

電通ダイバーシティ・ラボ

Email : diversity@dentsu.co.jp

[作成元]

電通ダイバーシティ・ラボ

ジェンダー課題チャート制作チーム

2023年12月

